薬師堂の歩き妖石

《長　沼》

薬師堂の妖石は、薬師堂の西北の竹籔の中に、梵字が刻まれている六尺余（約二メートル）の平な石で、これを俗に化石と呼んでいる。

その昔、応仁の頃、この石、夜になると、大きな蝦蟆（がま）となって這い歩き、その大きさ九尺余（二、七七メートル）もあり、眼は大鏡のごとく、口は鰐のごとく、見る者腰を抜かさんばかりという。またある時は、この石、変じて城山より天神まで、天に黄色な布を引き、また白布のごときものを引いて人々を驚かしたといわれる。

西光寺の開山、舜應法師比の奇妖を止めんがため、真言秘密の法をもって梵字を刻み、妖怪を封じ込めたという。

それ以来、化石は歩かなくなったといわれる。

（「長沼名義考」より）

戸崎の小豆とぎ

《小　中》

平藤内屋敷の裏、北側を流れる小川に、石橋がかけられていて、戸崎の橋と呼んでいる。この橋の下には、昔から「小豆とぎ」という化物が住んでいて、夜になると『小豆とぐべか、人取って食うべか、ちゃっく〳〵〳〵』と聴こえるという。小豆とぎの正体は、年老いたイタチであるといわれている。